

# モビリティビジョン2050

(中長期モビリティビジョン改訂版)

2022年3月

一般  
社団法人 日本自動車工業会

## ビジョン改訂のポイント

自動車業界を取り巻く環境変化を踏まえ、社会・生活者の双方が豊かであり続ける世界へ貢献していくため、3つの視点でビジョンを改訂

### ①モビリティが果たすべき役割の再定義

移動にとどまらず、社会・生活者を中心にすえて「社会に貢献する資産として活かす」、  
「新たな機会・体験を創出する」と、より広義に再定義

### ②協創パートナーとの連携拡大

自動車関連業界のみならず、より多く、且つこれまで関わりが薄かったパートナーとも連携しながら全体最適で価値創造・課題解決に取り組む

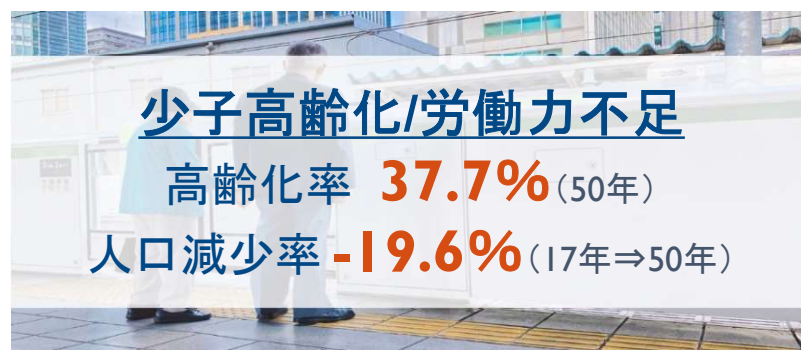
### ③新たな価値提供によるグローバルへの貢献

地球環境全体への対応も求められる中、幅広な技術・産業基盤をもつ日本ならではの最適な課題解決・価値創造で、グローバルへ貢献

## 自動車業界を取り巻く環境変化

# 従来からの社会課題は一層深刻化、生活者ニーズの多様化も加速

### 深刻化する社会課題例



**少子高齢化/労働力不足**  
 高齢化率 **37.7%** (50年)  
 人口減少率 **-19.6%** (17年⇒50年)

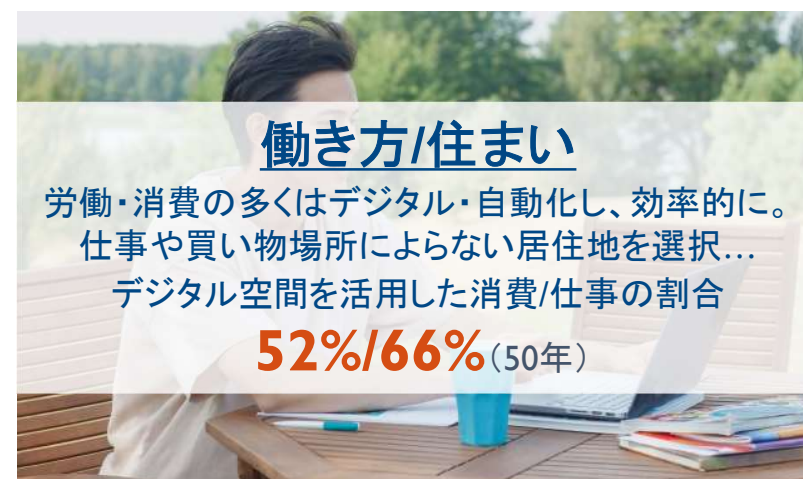


**地方衰退/都市部集中**  
 無居住化する地域 **18.7%** (15年⇒50年)  
 三大都市圏の人口割合 **56.7%** (50年)

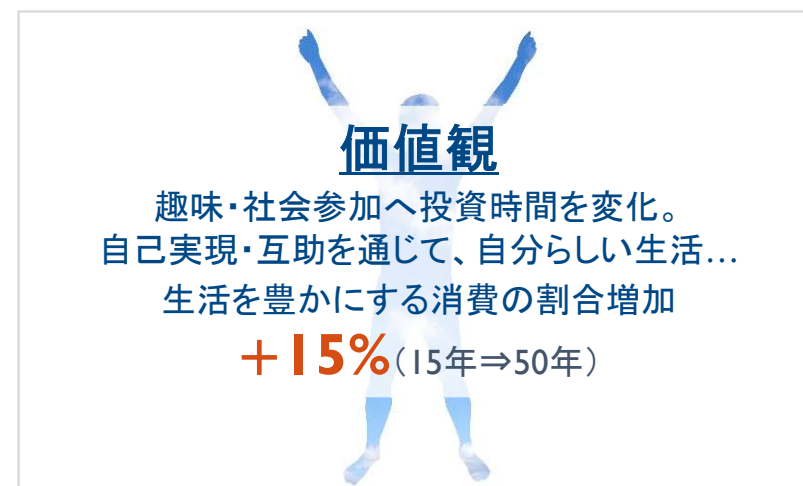


**自然災害**  
 災害リスクに曝される人口比率  
**73.4%** (50年)

### 多様化する生活者ニーズの一例



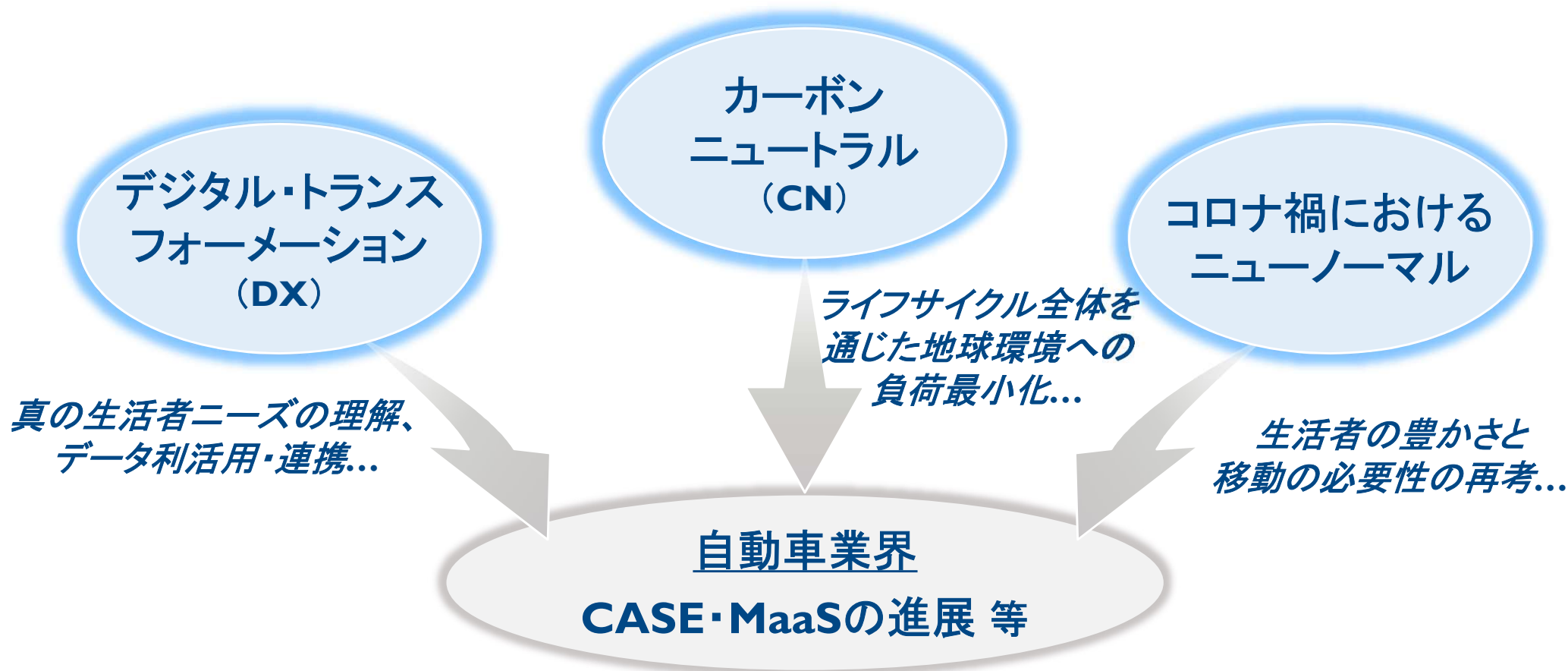
**働き方/住まい**  
 労働・消費の多くはデジタル・自動化し、効率的に。  
 仕事や買い物場所によらない居住地を選択...  
 デジタル空間を活用した消費/仕事の割合  
**52%/66%** (50年)



**価値観**  
 趣味・社会参加へ投資時間を変化。  
 自己実現・互助を通じて、自分らしい生活...  
 生活を豊かにする消費の割合増加  
**+15%** (15年⇒50年)

## 自動車業界が新たに直面している環境変化

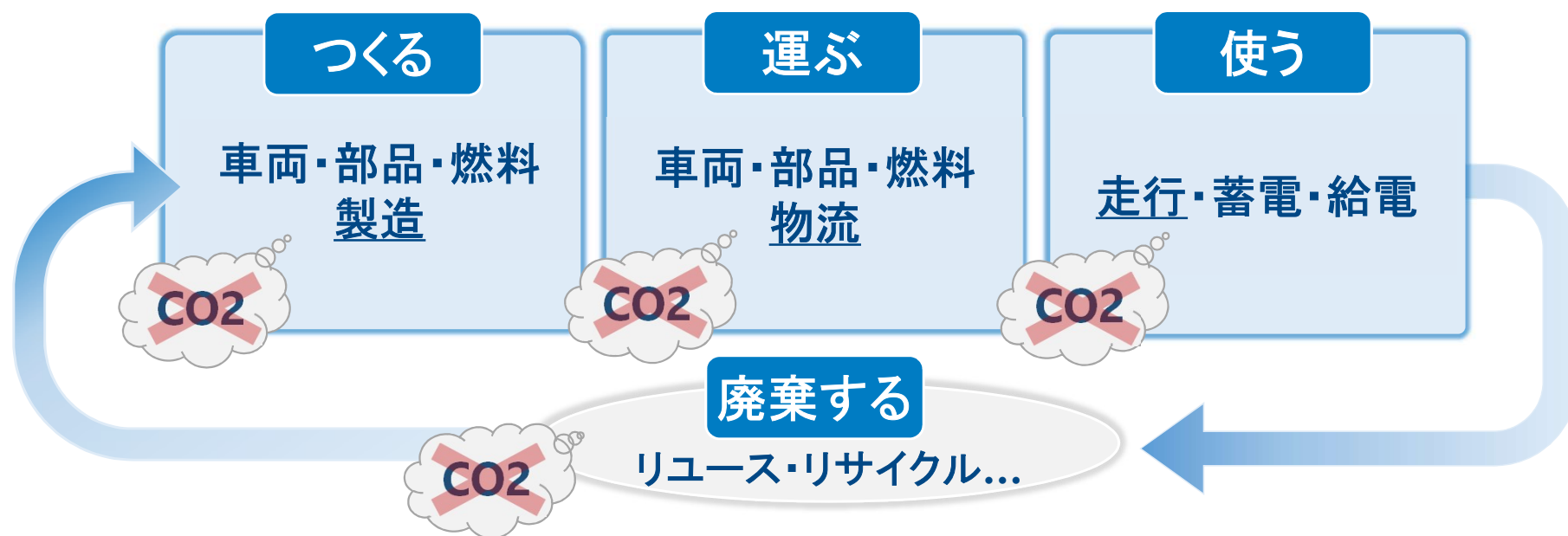
2050カーボンニュートラル実現等、業界の自助努力のみでは対応できない  
環境変化・社会的責任の拡大にも直面



## カーボンニュートラル実現に向けた課題

ライフサイクルすべてのプロセス(「つくる」「運ぶ」「使う」「廃棄する」)の脱炭素化と、雇用 とものづくり産業の競争力維持の両立が必要

### 課題① カーボンニュートラルの確実な実現



### 課題② 雇用・産業競争力の維持

カーボンニュートラル実現には、

- ・車両・部品の構造変化による雇用喪失(内燃機関産業の減少など)
- ・エネルギー価格上昇による国内製造業のグローバルでの競争力低下

などのリスクあり

日本の産業発展への貢献

自動車産業の強みである幅広い技術を活かし、社会全体のカーボンニュートラル推進の牽引役として、雇用維持・内需拡大・産業発展に貢献

モビリティを活用した新たな価値創造・課題解決

カーボンニュートラル  
の達成



雇用・産業競争力  
の維持・発展

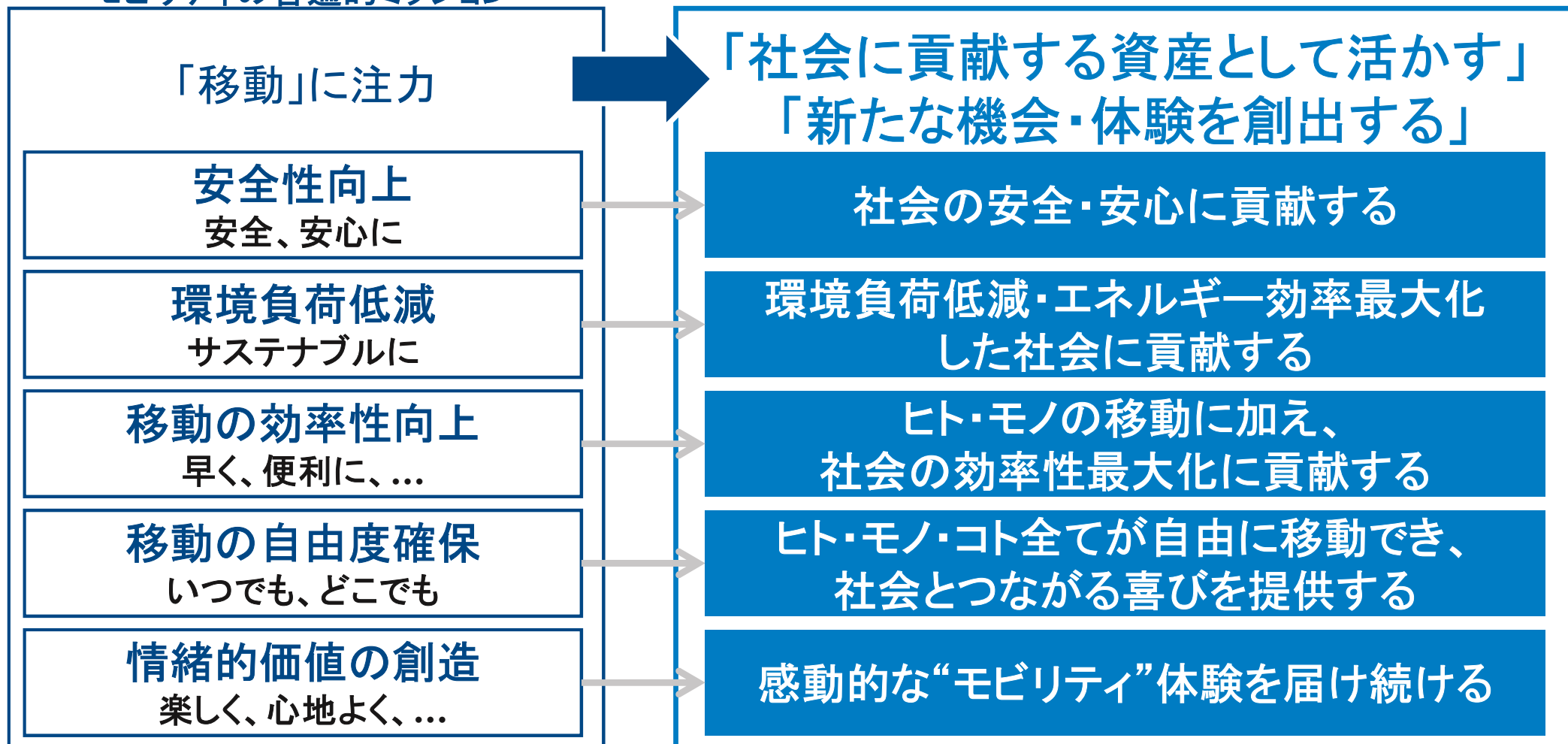
自動車産業が、  
・豊かで夢のあるモビリティ社会を実現  
・牽引役として日本の産業界に貢献

## モビリティが果たすべき役割の再定義

直面する環境変化や社会課題・生活者ニーズに対応するため、  
モビリティの役割を、社会・生活者を中心にすえて広く再定義

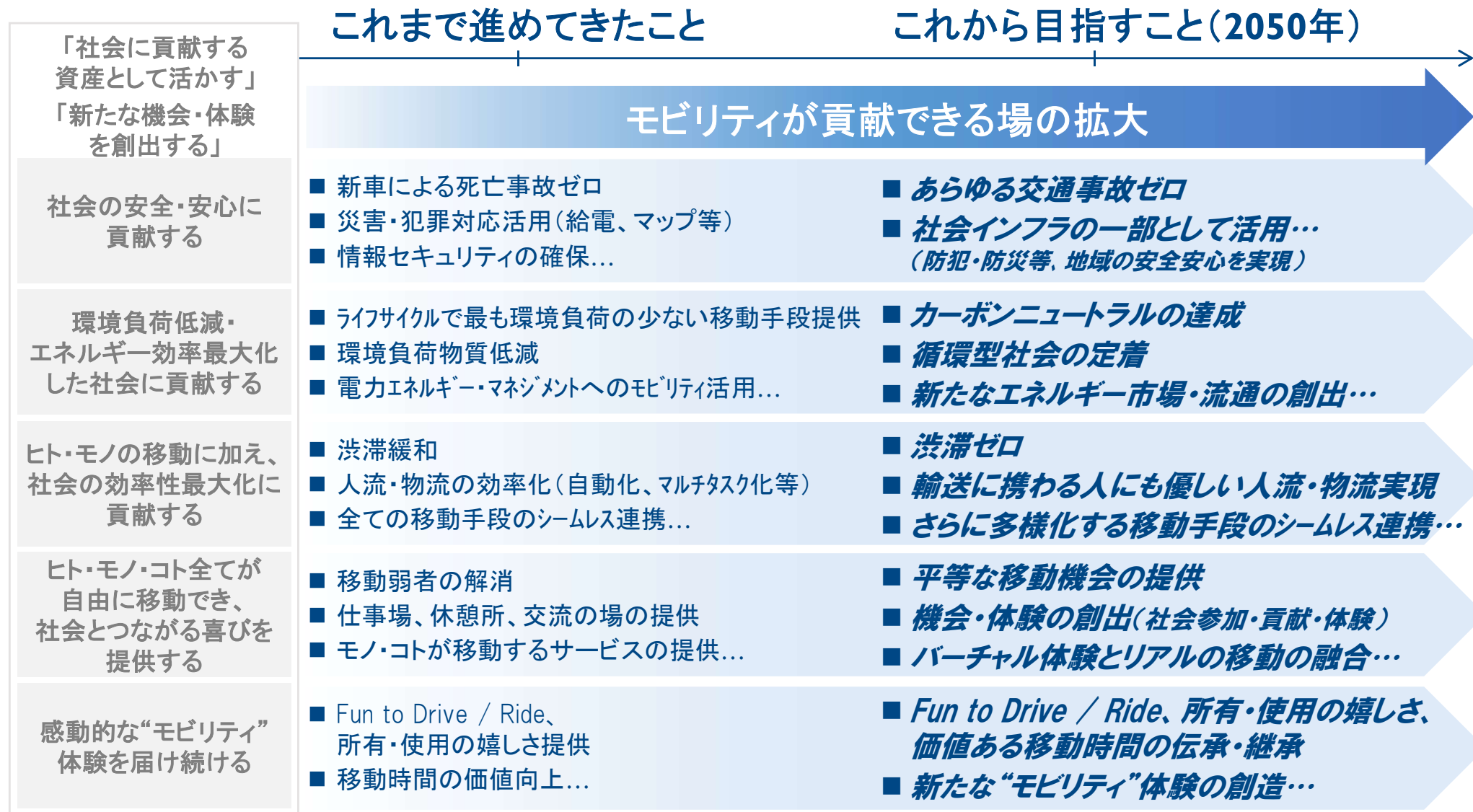
(2017年発信の中長期モビリティビジョンにおける)  
モビリティの普遍的ミッション

2050年に向けてモビリティが果たすべき役割



## 2050年に向けた新たな価値創造・課題解決

### モビリティの果たすべき役割を通じて、移動の枠を超えて新しい価値を創造





# 2050年の世界観

環境負荷低減・エネルギー効率  
最大化した社会に貢献する

社会の安全・安心  
に貢献する

モビリティを活用した  
新たな価値創造・課題解決



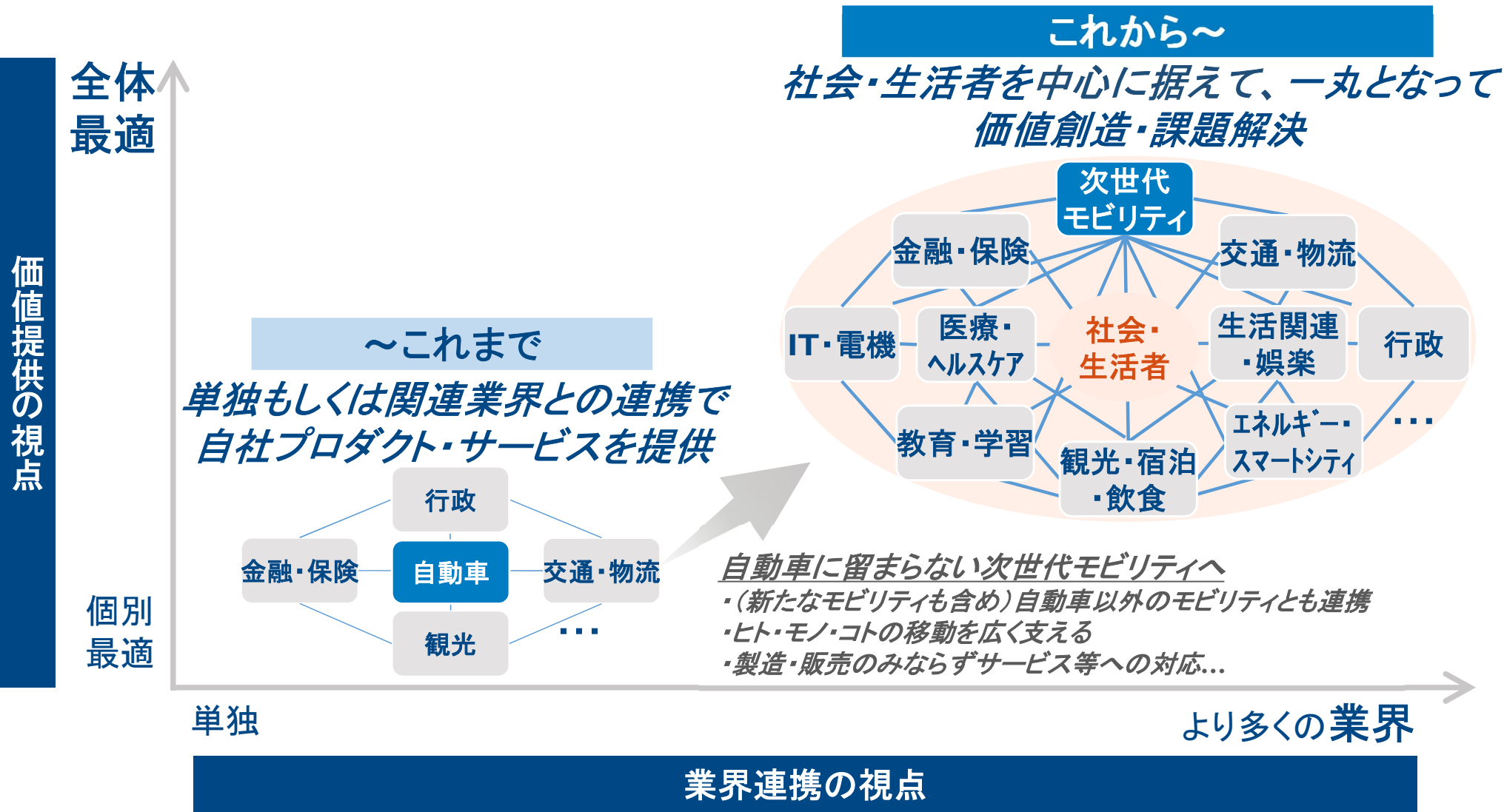
ヒト・モノの移動に加え、  
社会の効率性最大化に貢献する

ヒト・モノ・コト全てが自由に移動でき、  
社会とつながる喜びを提供する

感動的な“モビリティ”体験を届け続ける

# 協創パートナーとの連携拡大

より多くの業界・行政と連携し、モビリティが牽引役となり、全体最適で価値創造・課題解決に取り組んでいきたい

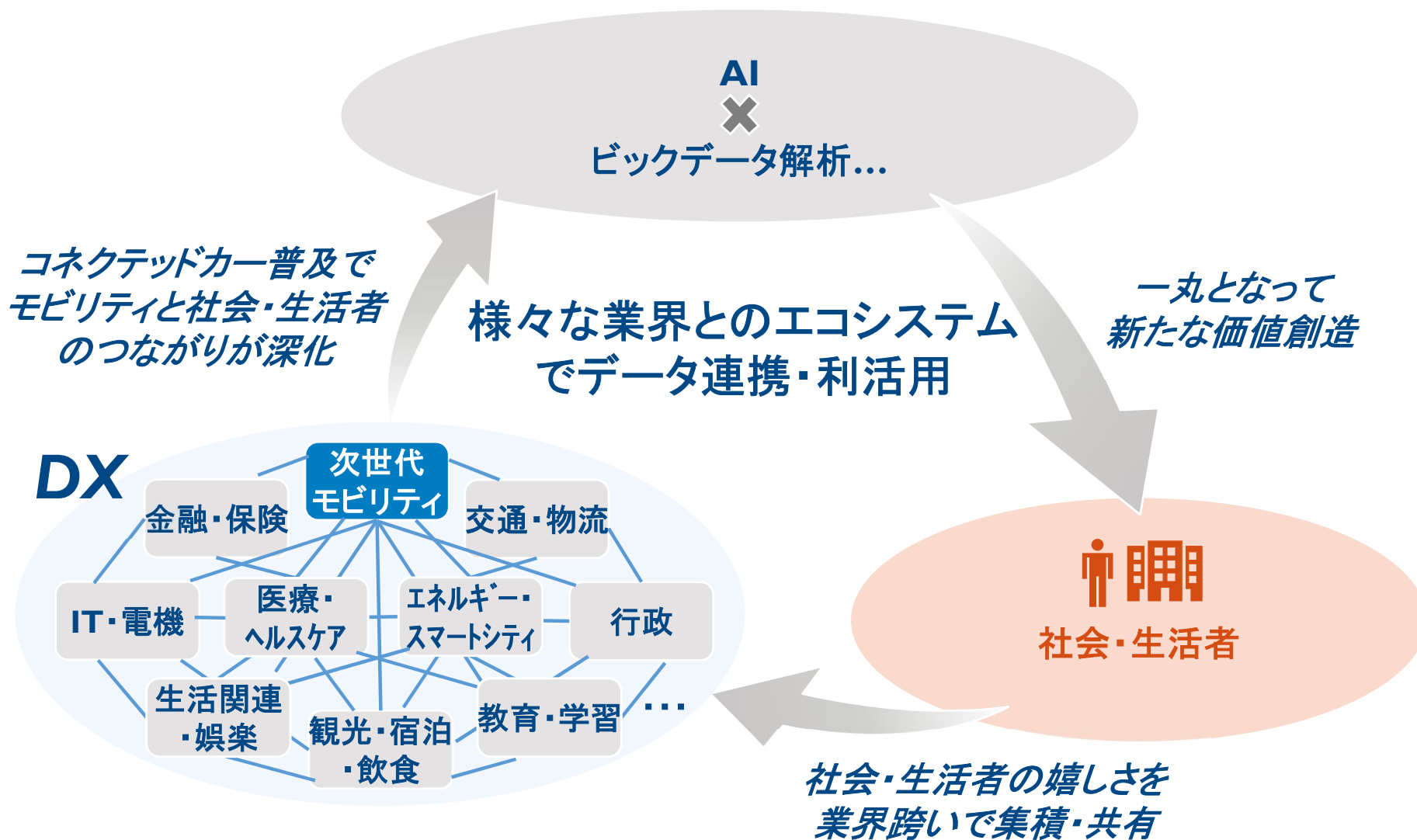


業界を超えたDXによる新たな価値創造

社会・生活者とつながることで、DXの源となる様々な情報・データが集積可能  
様々な業界とのエコシステムにより、一丸となって新たな価値を創造する

バーチャル

リアル



## グローバル貢献

日本ならではの強みを活かし、国内で培ったものの輸出と、現地の状況に応じた現地化の二つの視点から、グローバル貢献を果たすことで国際社会と協調

### 日本ならではの強み

#### モビリティに関する複合技術

パワトレ	要素技術	...
内燃機関・HEV	次世代電池	...
BEV・FCEV	FC・水素貯蔵	...
次世代燃料	V2X	...
⋮	⋮	⋮

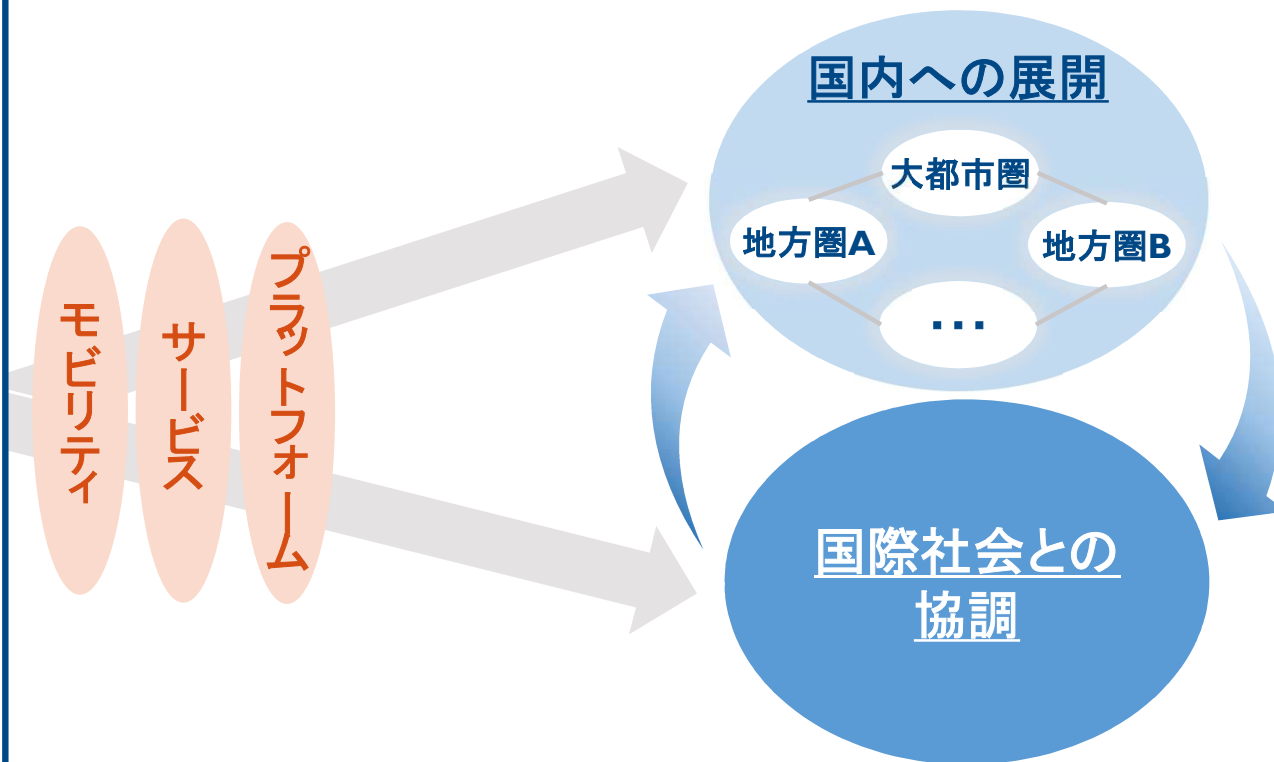


#### 幅広い産業基盤

エネルギー・スマートシティ	医療・ヘルスケア	教育・学習	...
IT・電機	金融・保険	生活・娯楽	...

### ①国内へ展開・培ったものを諸外国へ輸出

(例: 日本同様再エネ比率が低い国のCN実現への協力等)



### ②各国・地域の状況に応じた現地化

(市場の受容性・現地政府の方針等)

まとめ

モビリティが果たすべき役割を再定義し、協創パートナーとの連携を深めることで、社会・生活者双方が豊かで、夢のあるモビリティ社会に貢献していきたい

業界を取り巻く環境変化

社会課題深刻化 生活者ニーズ多様化

新たに直面している環境変化

DX

CN

ニューノーマル

上記を踏まえ「モビリティの果たすべき役割」を広く再定義

自動車業界

連携

協創パートナー

(関連する様々な業界、行政等)

日本の強みである幅広い技術を活用

カーボンニュートラル実現と雇用・産業競争力発展を両立し、豊かで夢のあるモビリティ社会へ貢献

様々な視点での価値創造(新たな嬉しさの提案)

様々な視点での課題解決(困り事の解決)

グローバル貢献による国際社会との協調

我々は業界の枠を超えて、  
多様な方々を受け入れた幸せな社会を作るため  
社会・生活者に寄り添い続け  
モビリティが果たすべき役割を通じて  
グローバル貢献を果たす

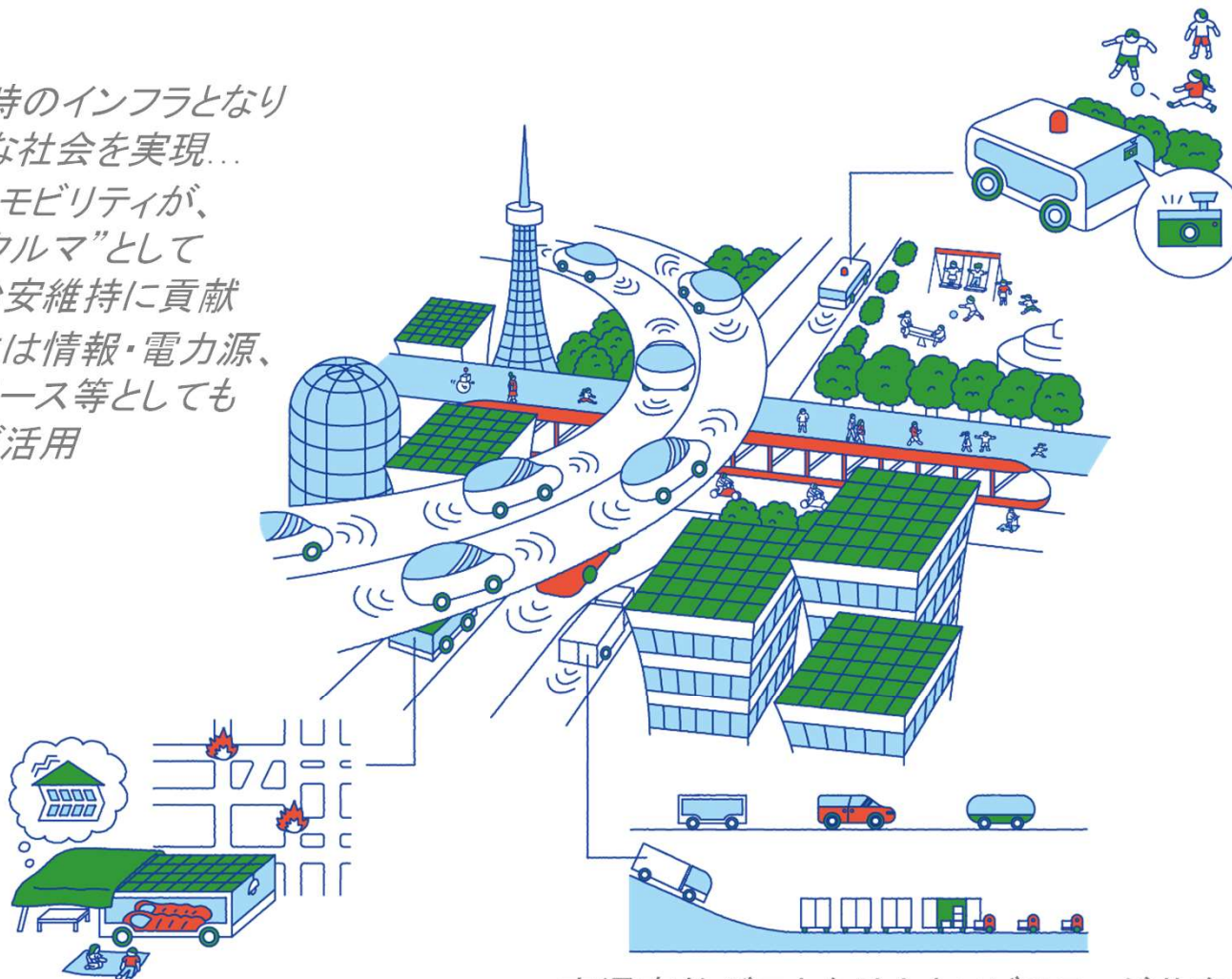
- 移動にとどまらず、「社会に貢献する資産として活かし、新たな機会・体験を創出するモビリティ」を提供
- 社会・生活者双方が豊かであり続ける世界を目指して、業界内外の協創パートナーと連携
- 幅広な技術・産業基盤をもつ日本ならではの最適な価値創造・課題解決で、グローバル貢献を果たす

# (参考)2050年の世界観

## 2050年の世界観・詳細イラスト 「社会の安全・安心に貢献する」

### ■ 防犯・防災時のインフラとなり安全・安心な社会を実現...

- 走行するモビリティが、“見守るクルマ”として地域の治安維持に貢献
- 災害時には情報・電力源、居住スペース等としてもモビリティが活用
- ...



### ■ 交通事故ゼロとなり人とモビリティが共存...

- 先進安全|自動走行の普及で、交通事故がゼロに
- 歩車分離や地下道を使った輸送、速度に応じた道路設定が実現し、歩行者・自動車・その他のモビリティが協調、安全・安心に移動
- ...

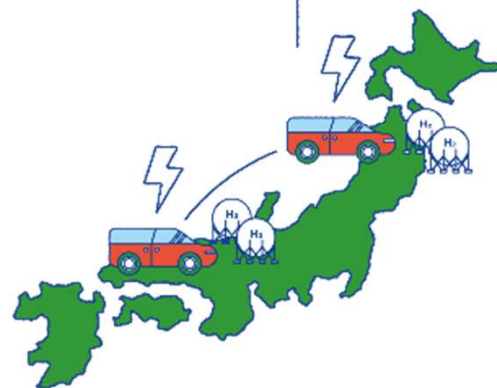
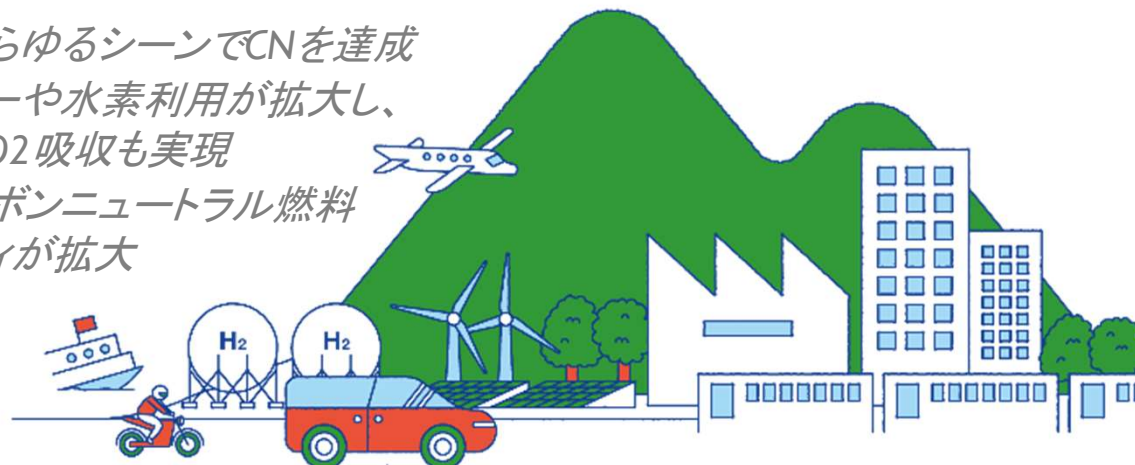


## 2050年の世界観・詳細イラスト

### 「環境負荷低減・エネルギー効率最大化した社会に貢献する」

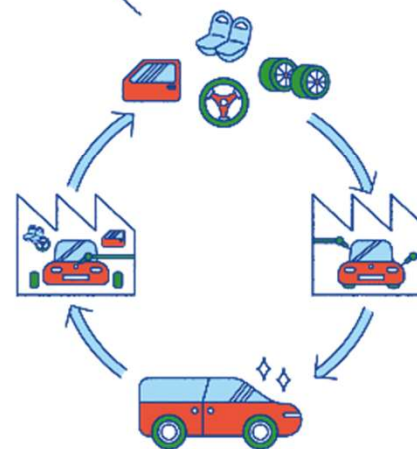
#### ■ “つくる・運ぶ・使う”あらゆるシーンでCNを達成

- 再生可能エネルギーや水素利用が拡大し、森林等活用した、CO2吸収も実現
- 電動化・水素、カーボンニュートラル燃料を活用したモビリティが拡大



#### ■ モビリティによる新たなエネルギー流通の実現

- モビリティも活用したエネルギーマネジメントの実現
- 系統に寄らず、水素や電力等のエネルギーをモビリティが輸送



#### ■ リサイクル・リユースを通じた循環型スキーム確立

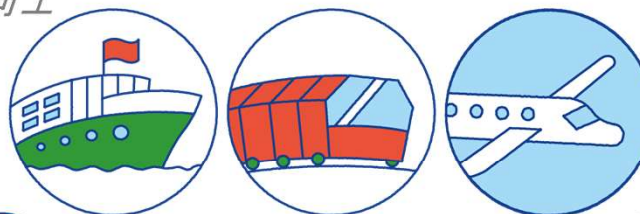
- 電動車用バッテリーを始めとして、あらゆる部品のリサイクル・リユースが拡大
- リサイクル・リビルトパーツの利用拡大で、限られた資源の有効活用が可能に

## 2050年の世界観・詳細イラスト

### 「ヒト・モノの移動に加え、社会の効率性最大化に貢献する」

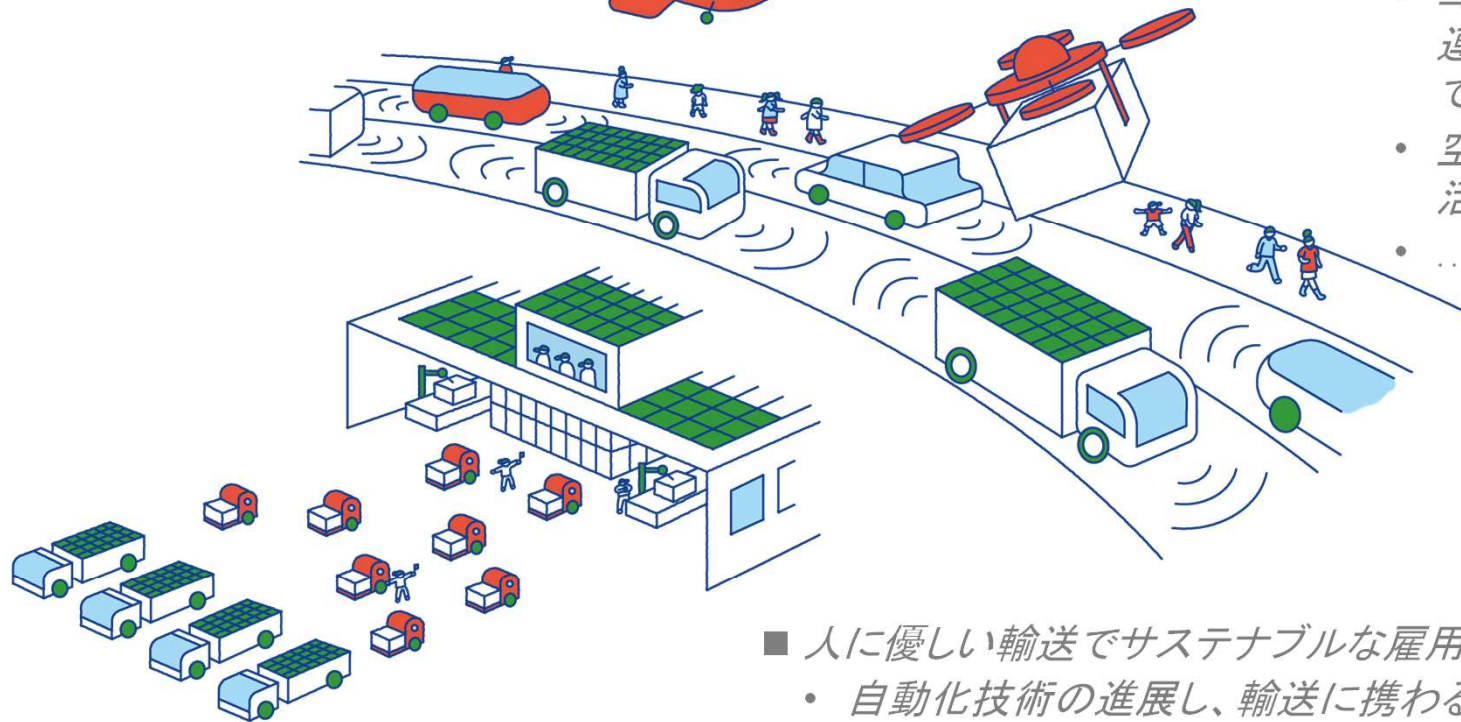
#### ■ 更に多様化を続けるモビリティ同士の連携...

- 公共交通に留まらず、あらゆるモビリティ同士が連携し、シームレスな移動・輸送を実現
- 空飛ぶクルマ・ドローン、パーソナルモビリティ等新たに拡大するモビリティとも連携
- ...



#### ■ 空も活用した渋滞ゼロ社会の実現...

- コネクテッドカーによるインフラ連携や、自動走行車の普及拡大で渋滞ゼロが実現
- 空飛ぶクルマ・ドローン等、空も活用した輸送も拡大
- ...



#### ■ 人に優しい輸送でサステナブルな雇用を実現...

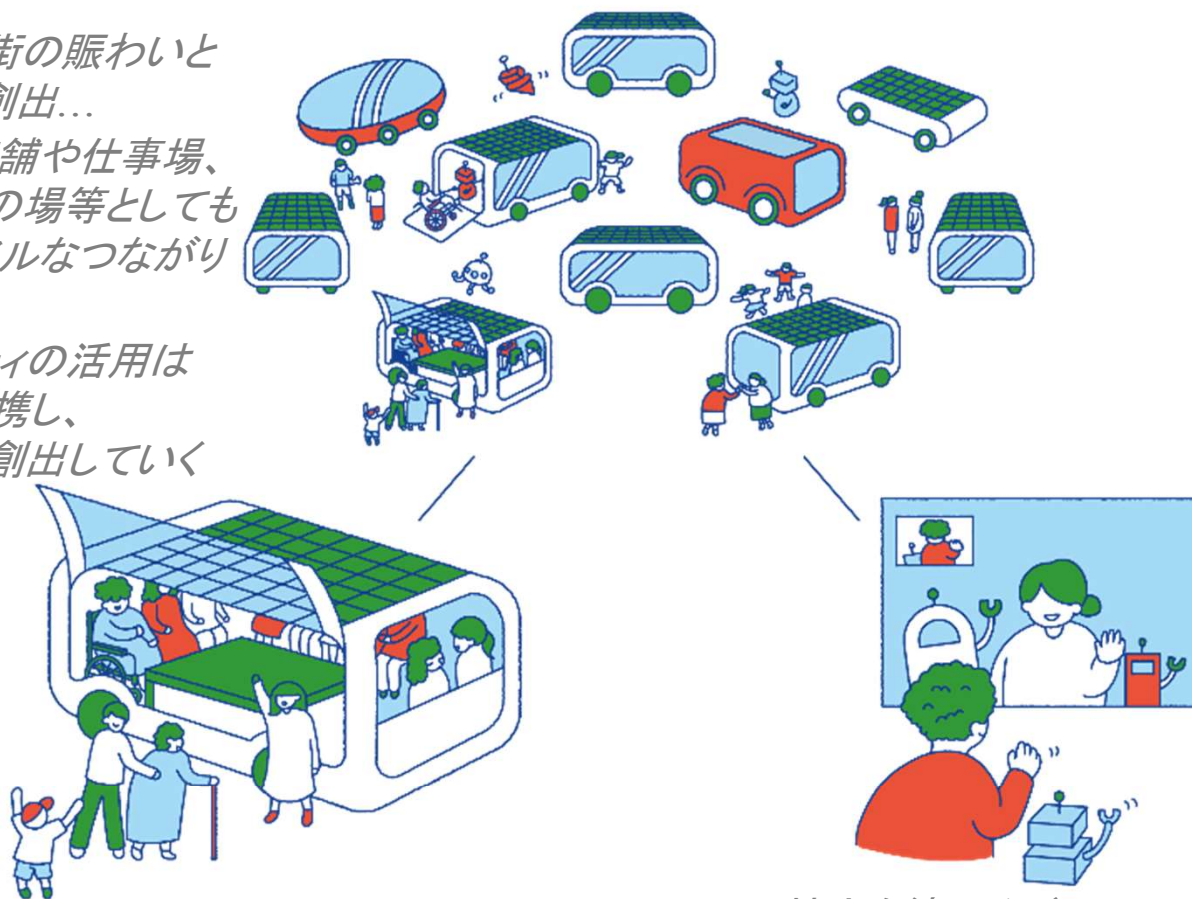
- 自動化技術の進展し、輸送に携わる人の負荷を大幅に低減
- 人とロボットは協調し、安定的な雇用と高い生産性を両立
- ...

## 2050年の世界観・詳細イラスト

「ヒト・モノ・コト全てが自由に移動でき、社会とつながる喜びを提供する」

### ■ モビリティによる街の賑わいと人のつながりの創出...

- モビリティが店舗や仕事場、休憩所、交流の場等としても活用され、リアルなつながりを創出
- 新しいモビリティの活用は街づくりとも連携し、街の賑わいも創出していく
- ...



### ■ 移動弱者も救う相互扶助社会の実現...

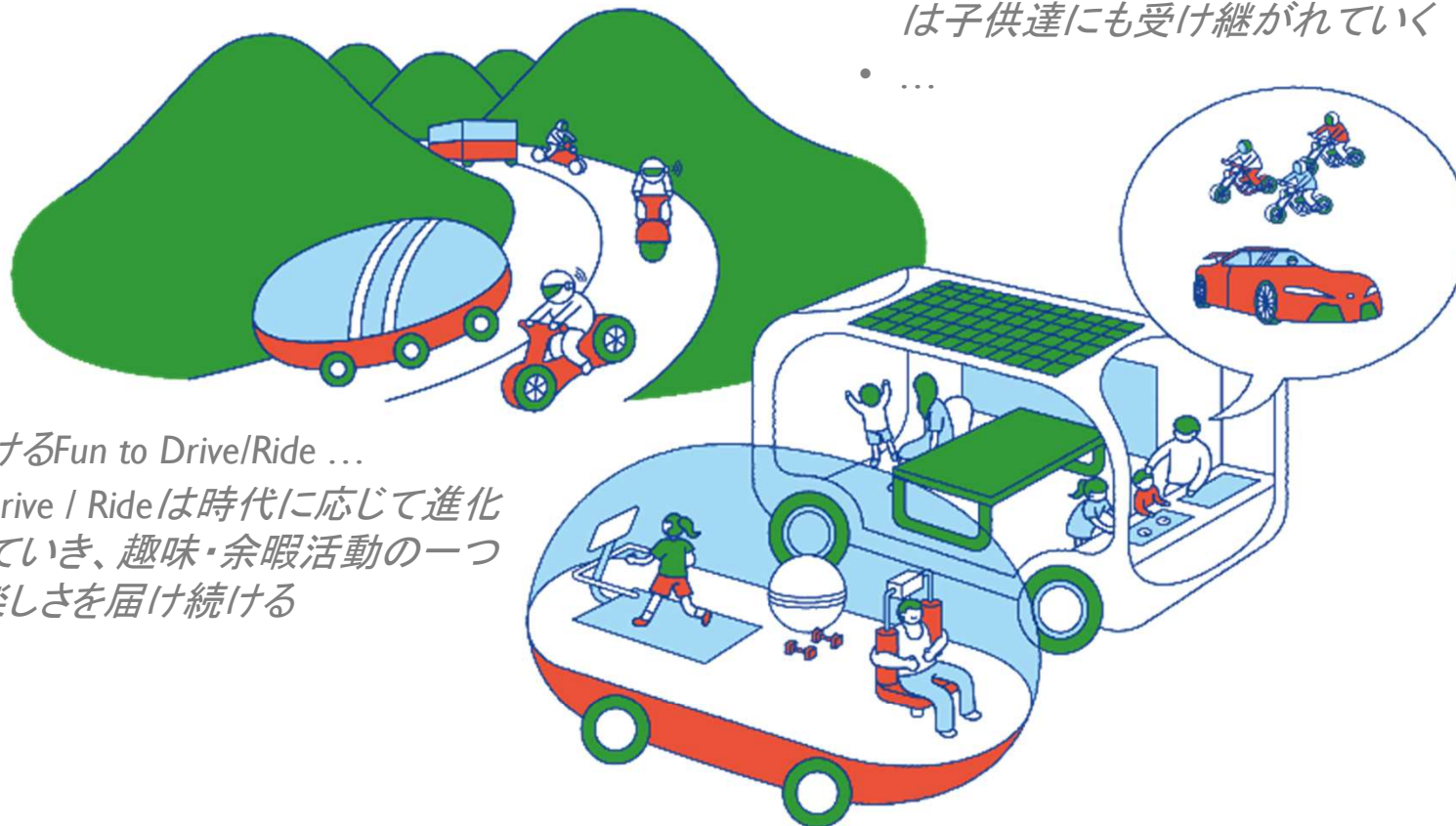
- モビリティの進化により、あらゆる移動弱者は解消し、平等な移動機会が実現
- 社会参加・貢献意識の向上と合わせて、相互扶助の考えが浸透し、モビリティも活用されていく
- ...

### ■ 拡大を続けるバーチャル体験とリアル体験の融合...

- VRや通信技術の進展と相まって、バーチャルでの体験やコミュニケーションは更に拡大
- バーチャル体験とリアルな移動は融合し、リアルな体験・コミュニケーションが必要な時に直ぐに行動に移すことが可能に
- ...

## 2050年の世界観・詳細イラスト 「感動的な“モビリティ”体験を届け続ける」

- 感動的なモビリティ体験を後世に届け続ける...
  - これまでモビリティが届け続けてきた感動的な体験は子供達にも受け継がれていく



- 進化を続けるFun to Drive/Ride ...
  - Fun to Drive / Rideは時代に応じて進化を続けていき、趣味・余暇活動の一つとして楽しさを届け続ける
  - ...

- “乗る・保有する”に留まらない価値ある移動の創出...
  - 自動走行の実現とも合わせて、移動中にもコミュニケーションやエンタメ、運動等、運転に囚われない新しい時間の使い方が可能に
  - ...